

東京都交友会

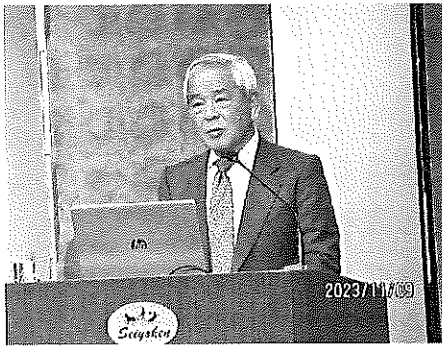
創立75周年・一般社団法人移行10周年記念大会

一般公開講座

「東京を唯一無二の世界都市に」

講師 青柳 正規 氏

(アーツカウンシル東京機構長・元文化庁長官)



青柳でございます。今日は都の行政を担ってこられた皆さまの前で、しかも75周年という周年事業の大会の中で、こういうお話をさせていただくことを大変光栄に思っております。東京について専門家の皆さまの前で東京について話すという事は、おもはゆいとい

ろがありますので、少し自分の経験に引き寄せて、東京のことをお話申し上げたいと思います。

やっぱり東京というのは江戸東京ですけれども、江戸の頃から考えても、家康がこちらに移ってきて以来構想が非常に大きい都市づくりであったということが、もう最初の頃から印象付けられると思います。

そのことを端的に示すのがこの表で、例えば1800年ちようどぐらいの世界で見ると、北京が100万を超えている都市で、それからロンドン、広東、そして江戸が100万までもういつていたと思うんですけど、この表では69万ぐらいとなっています。恐ら

くよく言われる頼山陽などが世界には100万都市があるというのを既に言っておりまして、その時にロンドンと北京と江戸であるということをもう言っておりますんで、この数字はちよつと小さ過ぎるんじゃないかと思ひます。

それが1900年頃になってロンドンが650万ぐらいと、あるいはニューヨークが420万ぐらいになっている頃に、東京では150万都市であったということが分かつております。やっぱりずっと1600年以降江戸東京は世界で見ても有数の大都市であったという事は、これは意外に東京を考える時に忘れがちなことですが、重要なことではないかと。そして、ここで2014年に、この表では3,700万となっていますが、これは首都圏です。ですから、神奈川県や埼玉県などを入れた数字として、この頃ちよつと調べましたら、東京都だけでは1,320万程度であると

いうこと。ですけれども、ざつと県境が壁で閉ざされているわけではないので、この3,700万という数字も非常に意味のある数字ではないかと思ひます。

ただ、世界的に見た時に東京都を考えれば、いろいろな大都市と比肩するだけの人口を抱えている非常に重要な都市であるということには変わりないと思ひます。そういう東京を考える時に、よく言われるのは少

し緑が足りないんじゃないか、少ないんじゃないか。例えばロンドンのハイドパークであるとか、あるいはニューヨークのセントラルパークに比べて小さ過ぎるのではないかとよく言われますが、実は、ちよつとそれを調べてみたら日本の場合には大変歴史的な緑地というか、公園、庭園というものが結構ある。

その中でも例えば、こういうウオーターフロントの一番ど真ん中にも江戸時代から続く芝の離宮、浜離宮があるというようなことで、

歴史とそれから存続した時間を考えていくと、かなり重要な公園・庭園、あるいは緑地があることが分かります。例えば、この芝離宮恩賜公園の場合は4ヘクタールぐらいで大都市の公園としては小ぶりですけど、その他に新宿御苑が内藤家の庭園だった所ですけども58ヘクタールあります。

実は私ずっと公立の学校で過ごしてきました。家は世田谷の端っこの用賀でして、最初は1年間だけ京西小学校に行つて、それから桜町小学校、それから瀬田中学、都立の新宿高校という形で、ずっと世田谷の端っこのからいろいろな所に通つていました。

今でも思ひ出すんですけども、桜町小学校は私が2年の時に開設された新しい小学校でして、2部制で午前と午後に分かれていて、生徒が急増してしまつたため、われわれ階段教室と呼んでいましたけれども1階から2階への階段の所に

座って授業を受けていました。非常に楽しい時代でした。

今思うと、先ほど副知事もおっしゃってましたが、

地域の大切さというのは、いかに子どもたちを成長させることができるかということが、最も大切なことだと私は思っています。当時の

社会全体は非常に勢いがあつて、けどまだそういう学校の施設等が十分ではなかつた時、非常に子ども

たちにいろんな工夫もさせられたし、あるいは満足な状況じゃないことがかえつて、われわれの成長にその後いろいろ助けてくれたのではないかということをつくづく感じています。

いわゆる今日日本は青少年が大変満たされた状態になっていますが、そのために人間として一番重要なサバイバル、困難をどう切り抜けるかとか、その時その時の障害をどう乗り越えるか、そのサバイバル感覚が非常に今、日本の青少年は落ちて、彼らの責任ではな

くて社会の責任でもあるんですが、それが昔と比べると、昔話になって申し訳ないんですがいかなるものかというところが少しある。

そういう新宿御苑は、後でお話しますが、高校のそばにあつたのでよく授業をさぼって御苑の中に逃げ込んでいたというのを思い出します。それから日比谷

も16ヘクタール、それから神宮外苑も28ヘクタールぐらいあります。それから小石川植物園、小石川養生所

だった山本周五郎の赤ひげ物語で大変有名なあそこなども、もう江戸時代の綱吉の頃からずっと続いているわけです。そういう物語のある緑地が東京には非常に多いということ。これは

やっぱり江戸から続いているということ、積み重ねてきた蓄積だと思えます。ですから、単に面積だけではなくて、そのようなそこに何かがあるか、物語がどうあるか、これが地域おこしのために、あるいは地域に住む人々がその地域を誇

りに思うために非常に重要なことなんです。そういう意味では、ロンドンやニューヨークなどに比べて、緑地の面積のパーセンテージというものは、いろいろ問題になるけれども、

そのような今申し上げたような歴史の重みがあつて物語があるということが非常に重要だと思えます。

というのは、1992年頃ですけれども世界のワインコンクールで初めてボルドーやブルゴーニュ、フランスのワインが負けます。

それでカリフォルニアのナパバレーの葡萄酒が勝つんですけれども、その時にフランスの醸造家たちが口をそろえて言うのは、彼らの、

つまり自分たちの外のワインには物語がないと。自分たちの所には例えば、男爵が失恋してしまつて城に閉じこもつて10年間ワイン研究だけに費やしたからこんなのができたというようなど、いろいろな物語があるんです。

うで、1992年に負けて、それ以来ずっとフランスワインは世界コンクールではトップにはなつていません。だけど売れ行きは全然落ちてないし、値段は中国人が買うのでとんでもない高騰をしています。それ

を見ると、その物語といたことをフランスの醸造家が言ったことはしごく的を射ている言葉で、そういう意味でわれわれも広さとかパーセンテージは小さい

けども、それぞれに物語があるのかと、その公園・緑地に。そういうことで、いろいろ議論を進めることではないかと思えます。

しかも、東京はいろいろ時代を経てきていますが、この東京駅は今回JRが大変な努力をして素晴らしい中央駅として築き上げました。これはアムステルダム

の中央駅をまねてるとよく言われますが、今現在ここまできちつと修復してみると、その手本にしたと言われるアムステルダムの中

とした立派な物になってます。

それから、幸いなことに、この周辺は戦前の都市計画

で全部高さを100尺としていました。100尺ですから、約33メートルです。

33メートルで丸ビルも旧丸ビルも8階建てにして

いますから、4×8＝32で大体1層が4メートルぐらいです。

その中で唯一この左側の所にあるんですけれども東京中央郵便局だけは、その当時に一緒につくつたんですけど6階建てにしました。ですから、33割る6で、1層が約5メートル強くらいあるわけです。そのおかげで郵便番号が導入された時に、自動振り分けの機械をどつかに設置しなくちゃいけないという時に、2階部分にもう一層、中2階をつくつてそこに機械を置くことができたんです。

ですから、古い建物で

あつただけど新しい設備にも対応することができるとフレキシビリティがあるというところで、大変素晴らしい名建築として評価されてきました。そうであるがゆえに今正面の所だけKITTEという名前で中央郵便局が保存されているんです。それはやっぱり日本の建築史の中でも誇るべきことだと思います。

そういう中で、いろいろ新しいものが改新されていく中で、伝統を守るといふようなことでの金竜山浅草寺など、東京にはいろいろな神社仏閣が残っておりまして、ここ浅草寺は年間約3,000万人の参詣者がいらつしやると。

私は今この信徒総代5人ぐらいいるんですけど、その一翼を担わせていただいているんですが、恐らくそれはこの五重塔の反対側に今美術館をつくらうという計画があつて、それを担当しろということをやっているわけですけども。これだけの素晴らしい所にと

ううまく新しい建物で歴史を壊さないでつくるかというところで、大変苦労しています。

そのために、私が大変親しくしている田根剛という建築家がいまして。エストニアの博物館をやつたことで世界的に有名になつて、最近では帝国ホテルを担当することになつた人で、まだ45歳ぐらいですけど、彼にこの建築を頼んで歴史の中にしつかりと違和感のない形で美術館ができるようにというわけで、お願いしているわけです。

そういう中で、やっぱり都庁がある新宿の新都心といわれていた所の再開発というものは、ちょうど私、新宿高校に通つていたものから、その時どんどん変わつていくさまを間近に感じていました。この浄水場の周りを歩いたこともありますし、それが今見たようなこういう高層建築に変わつていく一歩手前までこの辺をうろろしておりました。

私たちの新宿高校は元六中と言われていた所で、結構軍人になる人をたくさん輩出したようです。そのために正門の横の所には戦艦三笠にぶら下げられていた鐘は私たちがいる頃もぶら下がつておりました。それが今現在右下の図のよう

な建物に立派な新しい校舎に変わつています。そういうことの一步手前の頃、私は用賀に住んでいたものですから、いつか『ALWA YS三丁目の夕日』を見た時に大変懐かしく思いました。特にその頃できて高校の時に友達とお金がないの時に友達とお金がないの

で下から一番上の観覧階という所まで階段を上がつていきまして。という思い出もあつて大変懐かしい、それが中心になつていた。ただし、この東京タワーは2018年にグッドデザイン賞をずっと後になってからもらつています。しかし、グッドデザイン賞の本来的グッドデザインじゃなくてグッドデザインロングライフ賞ということで、長

い間評価された、あるいはたたえられてきた。暮らした中で人々に愛されてきたということでもらつています。

私はいつも東京タワーを見る時に、参考にしたと言われているエッフェル塔を思い出します。このエッフェル塔はご存じのとおりパリ万博の時につくつて、そして1910頃までには万博ですから取り壊す予定だったんです。半分を政府が持つて、半分をエッフェル社が持つて、その半分負担した分は1910年までのこの塔に登つて来る人たちから得る入場料によつて賄いなさいということ、これをつくつたわけです。

だから、今でも万博の場合、今度いろいろ大阪万博で問題になつていますが、どうやつてお金を集めるか、そして、結局それは解体しなくちゃいけないというところで、いろいろな課題がありますけど、もうパリ万博の時から全く同じ課題がありました。そ

の時に結局うまくいかなくて2010年に赤字のまま解体しようになつた時に助け船が出てきて、この塔のつべんに軍用のアンテナを付けて、それで貢献してくれるんだつたら軍がお金を出すということになつて解体せずに、このエッフェル塔は残つたんです。

しかし、そういう財政的なものがいろいろありますけど、これはやっぱり当時の建築技術、それから建築美というか、そういうものの極みです。しかも鋼鉄製ではなくて錬鉄という鋼鉄よりもさらに強度のある鉄を使つているんです。だから、技術的にも、それから建築としても、あるいは芸術としても素晴らしいものが込められている。

それに比べて、この東京タワーというのは、むしろ昭和33年の頃の日本の貧しさで、それから建築的には大して単なる塔でしかないということ。そのことを思い出させるためのモニユメントではないかと思いま

す。これだけ貧しく知恵もなく何もなかったのが、その後どんないろいろな開発等で蓄積した経験に基づいて、それでスカイツリーまでいつているということを書いておられるものではないかという。だから、どうもいつもこのグッドデザイン賞をもらったということに対して、私は抵抗があります。

それで、少し私が小学校、中学校、大学の頃まで書いていた用賀についてお話し申し上げます。この用賀の玉電の駅からいつも高校などに通っていました。1回は友達、悪ガキたちと小学生の頃、ただ乗りをしてつかまってしまったこともありま。幸いなことにその頃わが家には電話がなかったんで、かかって来なかったんで、友達のうちには電話があつて、彼はもうこてんぱんに親から怒られたと後で嘆いていましたけれども。

ここが今、右下のようなカラーのあれで全部な

くなつてしまつておりますけれども、この地域は1945年の5月24日、有名な東京の上空襲の時に東条英機の家を狙つて焼夷弾が落とされます。この向つて左側の地図の丸い、楕円形に描いてあるのが東条英機さんの家です。ところがこの四角で囲んだ所が実は鍋島の小城藩の邸宅があつた所です。それで鍋島の小城藩の家のほうはコンクリートづくりでした。私の祖母の家系がずっとこの家老みたいなのをやつていたんで、ここにも、この右側の大きな写真がある所に3軒ぐらい並んだ家があります。その真ん中の家が私の家でした。その左下の所のちよつと白くなつてい

からボイラー室が地下室にあつたんで、ベイゴマをやつたりなんかするのに絶好の隠れ場みたいなもので遊び場でした。そういう所にずっと過ごしておりました。

しかも、その後246が開通してオリソニック道路です。この地図の右上のほうに長谷川町子美術館というのがあります。ここがサザエさんの長谷川さんが住んでいた所です。ですから、あのサザエさんに出てくる、例えば、「そろそろお父さん帰ってくるから、だけど雨だから傘を持って行きなさい」とカツオに命令して、カツオが駆まで傘を持っていく。それと同じことを私もやらされて見ました。だから、自分の家を見るような感じでサザエさんの漫画を今でも懐かしく見ますけれども。しかも、感心するのは電話もない頃

に、そろそろ帰ってくるかと言われて、その頃のおやじさんたちというのは、結構時間に正しく帰つてきたんだと自分のことを反省する意味ですけれども感じております。そういう生活の中でした。

そういうところに64年のオリソニックを目掛けて246がどんどん拡幅していくわけです。そのことの中で1つもうご存じだと思ひますがエピソードがあります。それは、1958年です。それからオリソニックが始まる6年前に当時IOCの会長だったブランドー・ジーン。この方は軍人だった頃日本にやつてきていて、それで日本文化、特に日本の陶器などを大変気に入つて大コレクションをつくつた方です。

と。それから食べ物なんかもある。そして、その中の1つの意見にこの3番目のことに書いてあるように、第一まともなワインすらないじゃないか。という決めゼリフというか捨てゼリフのようなものであつた。

その人がオリソニックのために最終調整で日本に来ます。けれども、その時一緒に来たIOCのヨーロッパの委員たちは実は東京でオリソニックを開くことに反対でした。まず遠過ぎるといふこと。それからもう一つは敗戦国でこんな貧しい所でやつてもしょうがないじゃないかといふこと。

それでブランドー・ジーンは一計を案じて綱町にある三井倶楽部です。あそこにIOCの委員を全員呼びます。そして、ここは昔から財閥だつていいワイン貯蔵庫があるからということでした。試みに、もう戦後なんですけど、1947年ものシャトー・ディケム、これは甘いお酒です。だけど、甘いお酒で貴腐ワインとしてソールヌなんかと並ぶ非常に重要なお酒なんですけど、それはとても出てこないだろうと思つていたに

も関わらずといふか、ブランドー・ジーンは知つていたのかもしれませんが、注文するんです。そして、サールと出てきちゃつたので、その気難しい、そして

注文するんです。そして、サールと出てきちゃつたので、その気難しい、そして

貴族的なヨーロッパの委員たち全員が、「これはすごい」ということで、東京でオリンピックを開くのに賛成を投じた。ほんとかどうか分かりませんが、少なくとも三井倶楽部のホームページにはそう出ていません。ぜひぜひ三井倶楽部のホームページを見てくださ

い。この頃ご存じのとおり東京都政でした。東京都政はよく言われるように東副知事、鈴木都知事だった。鈴木俊一のちに知事になる。それほどに実際の仕事は副知事である鈴木俊一さんがやっていたようにですけども、ただ東龍太郎がやった仕事の中で非常に重要なのは、彼自身がお医者さんで公衆衛生でしたから、東京都の下水事情をほんとに東京オリンピックという行事を交えてですけど、抜本的に変えました。

この東京都政が終わる頃にはかなり清らかな海になっていた。これは下水処理と庭でも、あるいは工場でもやるように、もちろんその後公害というものが起こってはいきまずけれども、かなり貢献したということはある。

その頃、私たちにとてもは非常にづらい思い出ですけども、小尾脩雄教育長という人がいて、この人は妙に悪平等的な感覚があった。その頃、例えば日比谷であるとか、戸山、新宿、西というような所は、東京大学に普通でも100人以上、日比谷なんかは150人以上スムーズに入っていました。ですから、われわれ都立の進学校に行っている者にとって東大というのは単なる東京にある地方大学だったんです。ただ普通に勉強していたら普通に行ける所でした。これが小尾教育長は許しがたくて、それで入試準備教育の是正ということが入試のための勉強はやめるといふことにしてしまわれました。それで、辞める時に最後つべのように学校群制度をやれということでは彼はいなくなってしまうんです。そのために進学校など全部レベル低下していきました。

強はやめるといふことにしてしまわれました。それで、辞める時に最後つべのように学校群制度をやれということでは彼はいなくなってしまうんです。そのために進学校など全部レベル低下していきました。

その後結果として何が残ったかと言うと、いわゆる開成とか武蔵とか麻布という私立高校がグーと上がってきた。つまり、一般家庭に教育費の負担をさせるようになってしまった。東京都のわれわれのようにならぬ。東京のわれわれのようにならぬ。一般の私立高校には行けないような庶民の子弟たちが割を食らってしまったんです。

それともう一つは、そういう進学高校、あるいは進学中学、6年制です。これらに行くために塾がババと広がっていききました。このための一般家庭の負担というのは今でも大変なものです。世界的に見ても、こういう塾とか予備校のことを普通のエデュケーションじゃなくシャドーエデュ

ケーションといえます。そして、このシャドーエデュケーションというのは日本から韓国へ、韓国から中国へ、そして今ヨーロッパやアメリカにまで広がりに出しています。非常に懸念すべき教育のある部分のやり方が広まりつつある。それは遠くさかのぼれば、この小尾教育長までいくのではな

いかなという気がします。ですから、われわれ都民として都からはいろいろ恩恵を授かってきています。が、1つだけ私どもとして不満なのは、この時の教育改革です。だから、今徐々に都立高校が以前の姿に戻りつつあるので、少しほっとしています。

そのことを最もきちっと書いているのが、この奥武則さんという法政大学の先生で、昔都立高校があったと。そして、帯の所に失われた学校の個性と文化。どうしてこれを2つ出しているかと言うと、右のほうにコンクリートの塀の所から顔が出ています。

これは新宿高校と御苑の間にあった塀なんです。われわれこうやって穴を開けて自由に行き来していたんです。それがよく分かるので、私もこの穴を何度も何度も通りました。こっから入ると、その奥の御苑の所は林がダラーとあって。ですから、時々恋人同士が来ているんです。それを遠くから見ることがたまらなく楽しかったんですけれども、そういうことがありました。

その後、いわゆるバブルの頃にウォーターフロントが活用されていくようになります。特に芝浦ゴールドとかあるのはジュリアア東京とか、あの狂乱じみた時代を象徴するような施設がウォーターフロントにどんどんできています。だけど、ウォーターフロントの元々の起源は1871年にシカゴで起きた大火災です。左の茶色写真のようにセピア色になっていきますように、シカゴはほとんど燃え尽してしまします。そして、その後の再開発の時に、あの

五大湖の湖の周りに公園とかさまざまな公共施設が町の中から出されて、ウォーターフロントというものが初めてつくられます。

しかし、実はウォーターフロントの世界的に見た時に一番大規模にやった都市はどこかと言ったら江戸なんです。江戸で徳川家ややってきて、それで東京湾というのは2メートルか4メートルぐらいの浅瀬がずっと続きます。ですから、江戸を拡張するためにどんな埋め立てで土地を増やしていく。しかも、それは非常にシステマチックで千石あたり1万石とか百万石とか、千石あたり10人の人夫を提供させるんです、各藩に。

ですから、例えば熊本藩であれば30万石だとすると、10人×3000だから3,000人を提供して、その人たちが神田山です。ね。神田の峰を削り取って、それで少しづつ海側に土地を増やしていく。それが非常に重要な江戸にとつ

ての発展でした。それをもう1600年代から始めているわけですから、それを考えると、シカゴがウォーターフロントの先駆けと言われるけれども、もうちよつと歴史をひも解くと江戸が世界的なウォーターフロントの先駆けだと言えるかもしれません。

ただし、徳川幕府はやつたんですが、今でも大変困っていることが1つあります。それはあの江戸前と開発するために漁業権を認めてしまったんです。それが、その前に瀬戸内海で海賊と手を結ぶために海賊たちに徳川幕府は漁業権を認めるんです。その前例があるから江戸前の所でも漁業権を認める。それが今でも続いているので日本が何か海岸を触る時に、いつも一番問題になるのは漁業権です。けど、これは徳川家康までさかのぼるといふことで

す。しかし、焼け野原になった所にいわゆるシカゴ派と

呼ばれる建築の一派ができて、摩天楼をどんどんつくっていきます。特にこのシアーズ・タワーは現在名前が変わってウイリス・タワーになっていきますけれども、こういうものがシカゴではどんどん出てきた。

そういう影響でアメリカの建築の影響があつて、いわゆる東京国際フォーラムが、これももちろんアメリカの建築家をお願いしたものができます。ここは、だけど実はご存じのとおり丹下健三の有名な都庁として旧都庁が1957年に竣工する。これは実は近代建築としての大変重要な建物です。

もちろん東京都自体がどんどん大きくなり、そして経済成長をし、いろいろな行政が大きくなっていったので容量的に全く入らなくなつたので、新宿の副都心に移るわけですから、しかし、この建物は素晴らしいです。今の東京都庁はご存じのとおり、もう丹下さんが全く建築に情熱を

失つた時につくられたものです。ですから、建築としては全然優れていません。というのは、丹下さんがいかに世界的にすごいと言おうと、この代々木の屋内総合競技場です。これはわれわれ今この1つを取って世界遺産にしようとする運動をしています。将来なると思

います。それほど素晴らしいものですよ。例えば、この先端がスツと飛び上がっている所は、丹下さんの言葉にもありますけれども、唐招提寺のあの屋根の一番端の所のピューと上がった鷗尾です。あれをイメージして日本の建築の伝統をこういう構造的なものとしてここにはめ込んでいるんだと、そういう丹下さん自身の日本建築に対するリスクトがこの建物に入っているんです。それでいて世界だれもが驚くほどの構造的に構造設計の優れたものです。

これを見て、実は幻に終わってしまったがイラ

が、これのオマージュとして、これが素晴らしいからそれをレジェンドとして入った建物をつくつたんです。そのことは、あの委員会にも出ていた安藤忠雄さんが中心と言われていますが、鈴木博之さんというもう亡くなつてしまった東京

駅の復興をさせた建築史家ですけど、その人がやつぱりザハのはちよつと規模が大き過ぎるとかいろいろ欠点はあるけど、代々木の室内競技場をたたえるために、そういうものも込めてあの国立競技場をつくつたというのは素晴らしいということでした。

ご存じのとおり結局でか過ぎること、費用がかかり過ぎること。それから実は橋脚の1つが地下鉄の上に乗っかっちゃうので構造的にできないということ、構造的なものが一番大きな理由です。けど、それで中止しました。その後、限さんが取つたんですが、あれは限さんが取つたんじゃないかと、というのは伊東豊雄さ

んのほうが優れていましたし、それから3位になった田根剛の古墳型の競技場は素晴らしいです。

というのは、ああいう巨大な物をつくった時には、必ずその後スポーツ競技だけではメンテナンスがやっつけていけないので、いろんな行事をしなくちゃいけない。音楽とか何とか。そうすると大音響になるので、必ず周辺から文句が出ます。ところが、もし田根さんのように建物の大部分を古墳のように土で覆っておけば、それが防音壁になるんです。ですから、古墳型の国際陸上競技場が音楽会でやっても、そういう周辺住民から文句が出ない可能性があった。だから、惜しかったなと思うんですけれども。そういうことがありました。

大体、公共建築、公共施設、あるいは都市というものは、だから発展していくのではなくて、階段状に何かがあった時にガタッと整備されていく。そしてし

ばらくはずっと水平線をたどって、それからまたガタッと上がって。

そうすると、その違う都市の場合、この場合は青い線のほうですけど。例えば、北京であるとか上海であるとかということが先にいつていたんだけど、関東大震災で後藤新平の新しい東京ということまでガタッと東京が良くなった。追い抜くんだけど、そうするとある時点でこちらが水平の段階の時に、逆にまた追い抜かれる。こういう繰り返しなんです。

ですから、今、緑の所で2020のオリンピックという、オリンピックは実はある面非常に公共事業としての役割が強いものです。あまり大きくは言いませんが公共事業です。ですから、そういうことでガタつと1つは上がったんだけど、この後東京は恐らく緩やかにしかも横ばいと。

ここで東京という枠組みができてくるから、だから枠組みができてくる時、文

化が育つんです。どんどんどん変化している時には文化は追い付いていません。だから、バブルの時もどんな経済が成長するという枠組みが拡大している中で、文化的な充実感はありませんでした。ところが、失われた20年、30年と言われる1990年頃からいろいろなものがある成長し出してきています、文化的に。

そういうことで、ものごとの調和ということ、こととしてのものよりも、ものとしてのレガシーは残りました。だけど、ことのほうのレガシーがどれだけ残ったのかと言うと、オリンピックの例えば、タウンであるとか、東京キャラバンであるとか、あるいは現在も続いている伝承のたまてばこ、八王子のほう、多摩地域でやっている。ああいうものは残ってきています。それから東京大茶会。この辺は幸い私今務めさせていただいている東京のアーツカウンスルが担当して、こういうレガシーを

しつかり残していこうというのをやっています。そういうものが残ることによって、どんなものだけではなくて、いわゆるほんとの文化そのものが充実をしていくのではないかと。

そういう意味で、世界的に見てもいろいろなお料理のオリンピックであるとか、いろんな行事があった中で、ことが充実してきて音楽や美術、映画。映画も東京映画祭がまた大変活況に満ちている。それから演劇であるとか、スポーツ観光というものによって東京は文化都市としての充実感をさらに増しています。

ただ1つだけお願いしたいのは、やっぱり演劇が、例えばロンドンやニューヨークに比べて弱いんです。これは、1つは日本の演劇は昭和年代の新劇というものを中心として進めてきて、その新劇が少し今弱くなっています。そういうことがあるといふことと、それから劇場が少ない。

それから一つ一つの演目が例えば、ロンドンなんかではミュージカルで3年も5年も続けて同じものをやるというふうなことで、世界から見に来る人を集める。それから、演者たちもそれで潤うというふうな長期公演がほとんどは必要なんです。それがなかなかできないということ。

それから、日本の全般として、芸能人は収入が恵まれていません。例えば、私同年配だからいつも胸を痛めるんですけど、吉永小百合というのがいらっしやいますけれども、あれだけの国民的女優であつてもまだ写真なんか、JRなんかに出なくちゃいけない。あの人は五十何歳の時に1回引退しようとしたんです。そして周りには自分の会社で20人ぐらい社員を雇っている。それで辞められなくなつちやつた。

だから、原節子のようにほんとに引退するだけの、だけどアメリカなんか、ヨーロッパでもそう

ですけれども、女優、俳

いか。

優、あるいは歌手なんかある程度成功すると恐らく100億、200億の蓄財ができて、農園を買ったり、それからペットの愛護協会の会長になって自分でそういう仕事をやっている。日本の芸能人たちはそれができないうです。これはやっぱり特殊な才能のある人にきちつとした報酬を与えるということをやっている。日本はやっていないので、もう横並びなんです。ですから、吉永小百合のような例が出てきてしまう。

演劇というのは若い人たちに対して違う世界観とか違う価値観というものをさせることができるというところで、若者の可能性を拡大することに非常に重要なパフォーマンスングアートなんです。そういうところをぜひぜひお考えいただければと思います。

そのために、実は文化庁は劇場法と呼ばれる特に劇場・音楽堂の活性化というような法律まで出しています。しかし、こういうのが出るということ、やっぱり活発でないということなんです。ですから、今、例えば、下北沢の本多劇場とか、あるいは池袋に東京劇場が出てきますけど、そういうものをもっともつと東京全体に広げていくということが必要なのではな

東京都の場合はきちつとした文化振興でこの文化戦略2030、あるいは東京文化ビジョンというのを立ててくださっています。そして、幸いなことに東京芸術文化評議会というのをやらせていただいています。これは今、秋元さんとかあるいはコシノヒロコさんとか、日比野さんとかさまざまにまな方々に入っている。そして、この評議会の時はいつとも私が会長をやっているんで、隣に都知事も座ってください。皆さんの意見をきちつと聞いてくださっています。

ですから、こういうものがあるから、いろんな形で

これから文化的に東京を充実した都市にして、世界都市にしていくということができると思っています。しかも東京というのは、ちよつと拾い上げただけでも仲見世があつて、そして境内のある浅草寺であるとか、あるいは寛永寺とか、あるいは池上本門寺であるとかというものがあつて、それから新しいものと古いものとのちよつと行つた所ですけれども上野公園の北側とウォーターフロントという

「アカセキレイ」というのは、「ア」が安全で、「カ」が確実で、「セ」が清潔で、それから「キ」は規律がある。そして礼節がある。「アカセキレイ」です。

ような、さまざま違うものが対比させられる素晴らしいコンプレックスになっています。これをもちつと東京という所が出会いと発見の場であるということ、世界に訴えていきたい。

これだけの価値観のそろっている所は世界で東京しかないです。どんな路地に入つてもゴミがあつて落ちないというような、そして、路地に入つて行くと、生命の危険とは

言いませんが、コン泥に会つたりするような危険を他の都市では感じて身構えざるを得ないけど、日本ではそれがありません。そういう都市というのは、他にほんとはない。

だから、この「アカセキレイ」プラスあと文化的なものをもつと少し充実させて、それからゆとりというものを入れていけば、これはもうまさに世界に冠たる都市東京になると信じてお

ります。

そして最後に、これは谷根千の一部ですけれども、この東京の都心に近い所、

最初に申し上げたように世界でも唯一無二の都市ではないかと考えている。このいい所をこれからもいつまでも残していただきたいと思

います。

ご清聴ありがとうございます。ご清聴ありがとうございました。(拍手)